

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人 南陽恵和会

目 次

1	令和元度事業総括	1
2	法人事業概要	3
3	理事会・監事会・評議員会開催状況	4
4	会議・委員会開催状況	5
5	職員状況	6
6	職員研修等状況	7
7	苦情受付と対応	9
8	特養増床整備（R2.4.1以降の経過）	9
9	南陽やすらぎ荘指定管理までの経過	9
10	特別養護老人ホームこぶし荘	10
	（1）介護係	
	（2）医務係	
	（3）給食係	
	（4）総務係、事務人事係	
	（5）業務係	
11	こぶし荘ショートステイ	22
12	こぶし荘デイサービスセンター	24
13	こぶし荘在宅介護支援センター	28
14	こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家	30

1. 令和元年度事業総括

令和元年度は、介護報酬改定(処遇改善加算の増額、消費税増税に伴う基本報酬等の増額)に伴い、利用者においては、利用料金の増額をお願いし、さらに、入院時のベッド確保料を新たに設定しました。

消費税率アップによる施設経営への影響、さらには、新型コロナウイルス感染症予防対策に係る新たな経費など、安定経営に向け、様々な課題が出てきた1年でした。

令和元年5月1日に「特別養護老人ホームこぶし荘増床整備(30床)」のオープンに至りました。工事の遅れにより、当初予定より1か月遅れとなりましたが、心配された人材確保もオープンできる人員を採用でき、また、順調に30名の新たな入所者を迎えることができました。新採職員には、「人材確保プロジェクトチーム」を継続し、プリセプター制度による育成を行い、入所者のケアについては、これまで東棟・西棟で試行錯誤してきた「棟ごとケア」を増床棟(南棟)でも開始し、それぞれの棟の特徴を生かした「こぶし荘方式の棟ごとケア」の体制を整え強化すべく、さらなる課題を検討施行しました。

増床棟に新規移設した給食部門では、温冷配膳車による「温・冷」が維持された食事提供が開始され、利用者に喜ばれています。

また、今年度は、組織体制をより充実したものにすべく、組織体制の見直しをし、整理をしました。これまで、「職務の専門性」という観点から、「係制」を採用してきましたが、係同士の連携や業務の多様化に対応するため、「係制」を維持しながら、一部「グループ制」を導入し、これを整理するうえで、一部職名の変更をしました。昨年度に引き続き「日課検討委員会」を開催し、各部署内はもとより、各部署間のコミュニケーションを十分図るよう努めました。

8月には、広域行政事務組合議会において、正式に当法人南陽恵和会が「養護老人ホーム南陽やすらぎ荘」の指定管理者に決定。地域住民にとって重要な施設の一つであり、45年の歴史ある南陽やすらぎ荘の令和2年4月1日運営開始に向け、当法人においてはさらなる飛躍に向けての準備の年でありました。

9月には、「こぶし荘敬老会」が開催されました。例年は、全入所者家族に案内していましたが、今年度は、30床の増床により会場の収容規模の関係から、寿賀者の家族に案内をし、執り行いました。式典や余興、会食を共にしていただき喜ばれました。

10月には、「こぶし荘秋祭り」を職員全員で企画準備を進めていましたが、開催日前より台風19号が接近しており、職員には、災害に備えて待機を支持するほどの豪雨災害も予測される大型台風で、やむなく開催中止としました。後日、室内で入所者対象の「お楽しみ会」を実施し、喜んでもらうことができました。

今後、行事の開催にあたっては、利用者・家族はじめ地域の皆様と交流ができ喜んでもらえるよう、時期や内容など再検討しながら進めます。

今年度は、利用者の処遇及び職員の接遇の観点から、日常業務を振り返り、よりよいケアの構築のため、利用者家族にアンケートを実施しました。各施設事業所で結果をまとめ、さらに、日課検討委員会の中で、改善点に対しては改善策を検討し実施に向けて進めています。これを改めて、利用者家族に伝えていきます。

また、処遇改善加算を活用し、介護職員の処遇充実と全職員対象のキャリアアップ制度の充実に向け、継続実施しました。介護福祉士等の職能資格の取得を推進、助成金を活用した取得支援に取り組み、今年度、2名が介護福祉士の受験に合格しました。

感染症に関しては、施設事業所内において、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が蔓延するということがなく終わりましたが、1名の入居者がインフルエンザに罹患し、入院先の病院で亡くなられたことは、大変残念なことでした。

また、山形県の感染症発生動向調査からも、今年度のインフルエンザ発生数及び発生期間は例年より少なく、短かったようですが、この間、利用者家族にお願いしている「面会制限」が解けないうちに、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じることになり、引き続き「面会制限」をお願いするに至りました。

令和元年度後半3か月間は、新型コロナウイルス感染症の予防対策に日々対応をしていく緊迫した期間となりました。

山形県においても、3月31日に初めて感染者が発生。県内介護施設・事業所での感染も報告されました。マスクや消毒用アルコールなど感染予防に必要な物品が不足し、日々緊張感の中、当施設・事業所においても行政からの通達に沿って、利用者・職員を守るべく施設の感染予防対策を行ってきました。しかし、事態の収束まではかなりの時間を要するという見方が強く、気を緩めることなく継続した感染予防に努めていかなければならないと考えます。

今後さらに、利用者・家族・職員の心身への負担はもとより、運営経営面にも影響を及ぼすものと思われます。「面会制限」も長引くものと思われ、利用者・家族等の心情にも配慮した工夫を検討しています。

引き続き、施設運営会議をはじめ、感染症・食中毒予防蔓延対策委員会、安全衛生委員会、給食委員会等と連携協同し、感染症予防に努めていきます。

感染症とは関係なく、今年度は、年度当初より入所者の入院数が多く、その期間が長期にわたりました。入所者の高齢化・重度化が年々進行しているものと思われます。そこで、入所者の健康管理の一環として、口腔ケア増進に取り組むことを始めました。グループホームにおいては、歯科医と歯科衛生士による口腔衛生の強化を図るべく、定期的な口腔ケアの実施指導を行いました。来年度は荘の入所者にも向け、検討を進めているところです。また、摂食嚥下について研修会を行い、病院外来に相談しながら、安全に食事がとれる方法を学び実践に至る取り組みがありました。今後、さらに多職種連携協同し、入所者の健康管理に取り組む機会となるものです。

今年度の介護サービス利用実績は、入院による空きベッド1,460日（前年度比920日）、死亡及び入院による退所者24人（前年度比7人）、次期入所者までの空きベッド491日（前年度比299日）、ショートステイは、前年度増床工事に伴い今年度4月末まで4床のベッド数減があり、前年度比316人、平均利用率65.7%（前年度73.8%）、特養平均利用率は94.1%（前年度比▲3.4%）でした。デイサービス、支援センターは、昨年度介護保険法の改正により、地域密着型に移行して2年目、介護予防についても総合事業へ完全移行となって2年目となります。また、来年度に向け、他事業所の体制変更に伴い、今年度末から南陽やすらぎ荘の利用者が当デイサービスセンター、支援センターに一部移行があり、利用者増となっていますが、厳しい状況が続いています。

令和2年は、介護保険制度が施行されて20年目の年になります。また、3年ごとの介護報酬改定と第8期介護保険事業計画が検討される年でもあり、社会情勢の変化を見据え、経営安定に向け取り組むとともに、よりよいケアの実践に職員一丸となって取り組んでまいります。

2. 法人事業概要

- (1) 法人名 社会福祉法人 南陽恵和会
 (2) 所在地 山形県南陽市川樋508番地
 (3) 設立年月日 昭和63年5月17日
 (4) 法人事業

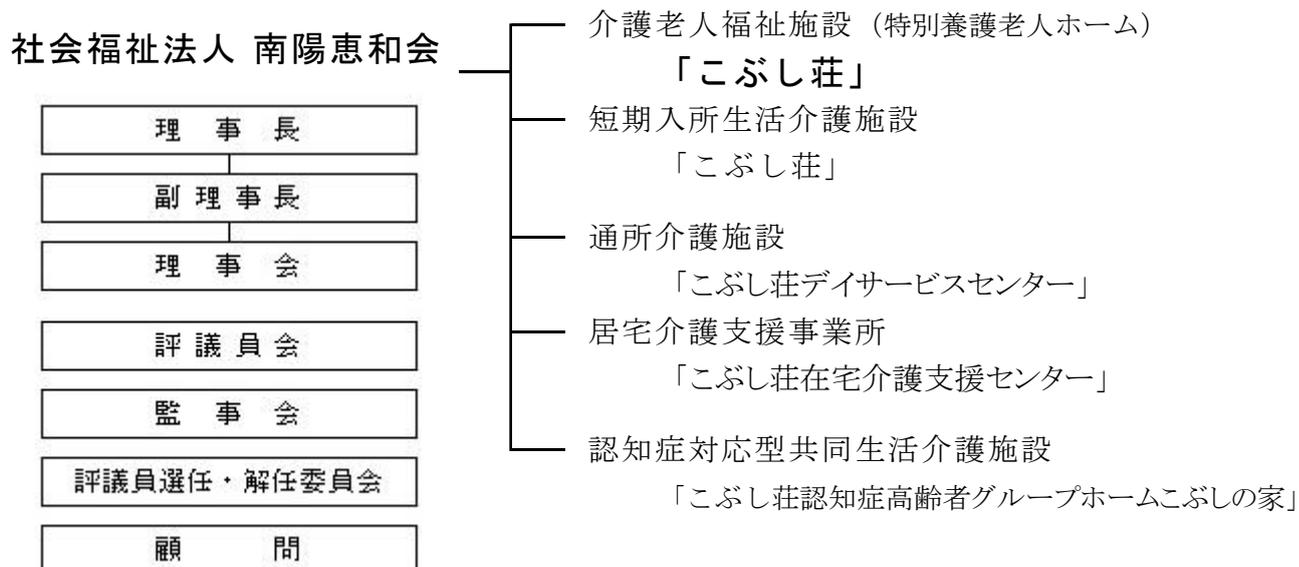
第一種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
介護老人福祉施設 (居宅介護支援事業)	特別養護老人ホームこぶし荘 (こぶし荘在宅介護支援センター)	110名	平成元年4月1日 ※R1.5.1 110名に増床 (平成5年4月1日)

第二種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
短期入所生活介護	こぶし荘ショートステイ	8名	平成元年4月1日
通所介護	こぶし荘デイサービスセンター	18名	平成5年4月1日
認知症対応型 共同生活介護	こぶし荘認知症高齢者 グループホームこぶしの家	9名	平成14年3月1日

(5) 組織図



3. 理事会・監事会・評議員会開催状況

(1) 役員
 理事 8名（定数 8名）
 監事 2名（定数 2名）
 顧問 1名（定数 1名）

(2) 評議員 9名（定数 9名）
 評議員選任委員 3名（定数 3名）

(3) 理事会開催状況

開催日	決議事項	出席者／定数		
		理事	監事	顧問
平成31年4月23日	平成31年度 臨時理事会 ・特養増床整備について 他	8/8	2/2	0
令和元年6月11日	令和元年度 第1回定例理事会 ・役員選任、事業報告案、決算報告書案並びに監査報告 他	7/8	2/2	0
令和元年6月25日	令和元年度 臨時理事会 ・理事長、副理事長並びに業務施行理事の互選について	7/8	2/2	0
令和元年9月12日	令和元年度 第2回定例理事会 ・第1次収支補正予算案 他	6/8	2/2	1
令和元年12月17日	令和元年度 第3回定例理事会 ・定款、組織規則等の一部改定について 他	6/8	2/2	1
令和2年1月23日	令和元年度 臨時理事会 ・南陽やすらぎ荘事業計画、収支予算案 他	8/8	2/2	1
令和2年3月26日	令和元年度 第4回定例理事会 ・令和2年度事業計画案、当初予算案 他 ※ 新型コロナウイルス感染防止のため書面による開催並びに決議とした	8/8	2/2	1

(4) 監事会開催状況

開催日	決議事項	出席者／定数
		監事
令和元年5月31日	令和元年度 第1回定例監事会（業務執行監査） ・監査の所見は「決算報告書」に添付	2/2

(5) 評議員会開催状況

開催日	決議事項	出席者／定数	
		評議員	役員
令和元年6月25日	令和元年度定時評議員会 ・決算報告書案並びに監査報告 他	9/9	10/11

4. 会議・委員会開催状況

(1) 施設運営会議

開催時期	開催回数	内 容
4月～3月	12回	事業計画の進捗確認と検証、目標達成のための協議検討

(2) リスク対策委員会

委員会名	開催回数	内 容
入所選定委員会	6回	次期入所者の決定、調整
身体拘束廃止委員会	6回	身体拘束廃止への取り組み
事故発生防止委員会	6回	リスク対策と軽減
看取り介護委員会	6回	看取り介護サービスの充実
感染症・食中毒予防まん延防止対策委員会	6回	感染症・食中毒予防まん延防止対策
グループホーム重度化対応委員会	6回	GHにおける重度化対応と医療連携
褥瘡発生防止委員会	6回	褥瘡発生防止対策
安全衛生委員会	12回	労働災害防止、労働衛生管理
給食委員会	12回	利用者給食提供の充実
広報委員会	5回	広報誌発行、ホームページ更新等
防災対策委員会	6回	施設防災対策、防災訓練実施
研修・地域連携委員会	6回	施設内研修、地域貢献活動の企画
リハビリ委員会	3回	個別リハ、集団リハの充実
ショートステイ委員会	12回	ショート利用者のリスク軽減
看護介護協働委員会	1回	喀痰吸引制度の普及啓蒙

(3) 特別委員会

会議名	開催回数	内 容
日課検討委員会	12回	棟毎ケアの検討・試行
秋祭り実行委員会	4回	こぶし荘秋祭りの企画実施
人材確保プロジェクトチーム	2回	人材確保への提案と福祉就職フェアへの参加

(4) 職員会議

会議名	参加者	内 容
平成31年4月16日	56名	平成31年度事業計画について 他
令和元年10月28日	52名	公平委員会の結果について 他

5. 職員状況

(1) 職種別

令和2年3月31日現在

職名	事業所別					R元年度 採用者数	R元年度 退職者数
	こぶし荘	デイ	グループ	支援	計		
施設長	1					1	0
事務職	2					2	0
管理者	【1】	【1】	【1】	【1】	0	0	0
生活相談員	2	1・【1】	-	-	3	0	0
介護支援専門員	【5】		【1】	2【1】	2	0	0
介護職員	52 (19)	4 (2)	7 (2)	-	63	14 (6)	2 (2)
看護職員	4 (1)					4	0
機能訓練指導員	1	-	-	-	1	0	1
管理栄養士	2		-	-	2	0	0
調理員	10 (6)		-	-	10	6 (6)	3 (3)
業務員	2 (1)					2	0
洗濯員	7 (7)	-	-	-	7	2 (2)	0
清掃員	3 (3)	-	-	-	3	0	0
夜警員	4 (4)					4	1 (1)
医師(嘱託)	2 (2)	-	-	-	2	0	0
実人員合計	92 (43)	5 (2)	7 (2)	2	106 (47)	-	-

※ () 内は嘱託・準職員・パート職員、【 】内は同一事業所内での兼務

※ 採用・退職者数に人事異動を含む

※ 実人員合計の内、他事業所を兼務する職員は本体施設でカウント

※ 本表は介護保険法に基づく配置基準を確認するための様式とは異なります

(2) 年齢別

(平均/49.1歳)

区分	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
男性	1	4	4	4	11	7
女性	0	2	12	19	27	12
計	1	6	16	23	38	19

(3) 在職別

(平均/6.6年)

区分	0～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31年～
男性	16	2	1	3	1	3	5
女性	31	8	7	5	3	11	7
計	47	10	8	8	4	14	12

6. 職員研修等状況

(1) 職場内研修

開催日	研修内容	参加者数
R1. 7. 26・30	手洗いを見直そう [感染症予防対策委員会] (講師：ケミカル産業様)	51名
R1. 8. 30	身体拘束と高齢者虐待のない介護 [身体拘束廃止・褥瘡発生防止委員会] (講師：柴田社会福祉士事務所 社会福祉士 柴田邦昭様)	29名
R1. 9. 17	誤嚥予防と食事介助について [給食委員会] (講師：置賜公立総合病院 言語聴覚士 中嶋友紀)	25名
R1. 10. 17	認知症の薬、認知症と薬 [研修・地域連携委員会] (講師：大東本店薬局 薬剤師 遠藤東吾様)	24名
R1. 11. 13	看取りについて [看取り介護委員会] (講師：置賜公立総合病院 看護師 伊藤裕美様)	32名
R1. 11. 28	認知症サポーター養成講座 (講師：佐々木グループホーム管理者)	23名

[] は主催委員会

(2) 外部研修

開催日	研修内容	出席者
平成31年4月	置賜地区機能訓練指導員研究会	機能訓練指導員
令和元年5月	置賜地区施設長協議会	施設長
	山形県老人福祉施設協議会総会・研修会 認知症の基礎理解	施設長 介護職
令和元年6月	対人援助技術を学ぶ	介護職
	特養部会 介護職員研修	介護職
令和元年7月	介護保険施設等集団指導	多職種 4名
令和元年8月	特養部会 機能訓練指導員研究会	機能訓練指導員
	職場研修指導者研修	介護職
	特養部会 生活相談員研修	生活相談員
	自立支援介護実践者講習会 8月～2月	介護職
令和元年9月	接遇講習会	介護職
	リハビリテーション研修	介護職
	特養部会施設長研修会	施設長
	認知症キャラバンメイト研修	介護職
	機能訓練指導員研究会役員会	機能訓練指導員
令和元年10月	特養部会 後期介護職員研修会	介護職
	山形県社会福祉振興会事務担当者研修	事務職
	特養部会 栄養士・調理員研修会	栄養士
	主任介護職員研修会	介護職

	普通救命講習会	介護職 5名
	施設介護支援専門員研修会	介護職
	リーダー育成研修	介護職
令和元年 11 月	特養部会 機能訓練指導員研修	機能訓練指導員
	新人コミュニケーション研修	介護職
	置賜地区主任介護職員研修	介護職
	社会福祉士専門講座	介護職
令和2年 2 月	特養部会機能訓練指導員役員会	機能訓練指導員

(3) 社会・地域貢献活動

期日	項目	参加数 派遣数	活動内容
R1. 5.12	中川地区花いっぱい運動(植栽)	5名	衛生組合様と共同作業
R1. 5.26	清掃活動ボランティア	14名	地区内のゴミ拾い、掃き掃除
R1.6~10月	中川地区花いっぱい運動	全職員	除草等の花壇管理
R1. 8.12	いわぶの里夏祭り	4名	模擬店への協力
R1.11. 2	中川地区文化祭準備手伝い	2名	展示品の掲示作業

(4) 研修講師派遣・派遣協力

期日	研修名	団体等	派遣職員
R1.12.22	認知症サポーター養成講座	南陽市文化会館	佐々木利典
R2. 2.29	〃	松沢公民館	山岸篤史
R1. 9.19	南陽市キャラバンメイト連絡協議会	南陽市	佐々木利典
R1. 8. 3他	認知症研修	山形県介護福祉士会	〃
R1.11.14	認知症研修	山形県老健協置賜ブロック	〃
R1. 7.12	認知症対応型サービス事業開設者研修	山形県	〃
R1. 6.10	認知症介護実践者研修	山形県、山形県老施協	〃
R1. 7.24	認知症介護リーダー研修	山形県	〃
R1.11.13	認知症対応型サービス事業管理者研修	山形県	〃
R1.12. 2	山形県介護の入門的研修	山形県老施協	〃
R1. 7. 4	職場内研修会	南陽市社会福祉協議会	〃
R1.11.28他	授業講義	済生館看護学院	〃
R1. 9. 4 R1.12.18	介護予防研修会	桐塚第一区親老会	勝見清美 支援センター
R2. 1.16	川樋地区サロン	川樋地区	〃
R2. 1.23	元中山地区サロン	元中山地区	〃

7. 苦情受付と対応

今年度の苦情受付はありません

8. 特養増床整備 (H31.4月以降の経過)

月 日	内 容
H31. 4. 2	建築確認完了証受理 (山形県)
H31. 4. 5	県補助金検査、介護保険検査、老人ホーム検査 4.25 検査済証受理
H31. 4.25	建物引き渡し
H31. 4.26	竣工式、内覧会 (4/26~27)
R 1. 5.1	増床オープン、入所者受け入れ開始

9. 南陽やすらぎ荘指定管理までの経過

置賜広域行政事務組合関係

月 日	内 容
令和元年6月11日	指定管理者選定に係るプロポーザル説明会 (やすらぎ荘面談室)
令和元年6月28日	指定管理者応募申請書の提出
令和元年7月16日	第1候補者として選定された旨の通知受理
令和元年7月31日	指定管理者による管理に関する仮基本協定の締結
令和元年8月22日	指定管理者指定書の受理、基本協定の締結
令和2年1月9日	職員派遣申請書の提出
令和2年2月18日	職員派遣に関する取決め書の締結
令和2年2月25日	令和2年度事業計画書、管理責任者選任届出書の提出
令和2年3月31日	年度協定の締結 (令和2年度の委託料支払いに係る取決め)

職員募集、研修等

月 日	内 容
令和元年9月1日	職員募集開始
令和元年8月30日 令和元年9月2日	嘱託職員の継続雇用説明会 (やすらぎ荘)
令和元年12月11日	採用内定者オリエンテーション (こぶし荘)
令和2年1月5日~	基本研修 (こぶし荘)、実地研修 (やすらぎ荘) 開始
令和2年3月	指定管理開始の挨拶状送付 (関係市町、団体、介護事業所 等)
令和2年4月1日	指定管理開始式、辞令交付式 ※新型コロナウイルス感染防止のため開催中止

10. 特別養護老人ホームこぶし荘 ～ 介 護 係 ～

(1) サービス全般について

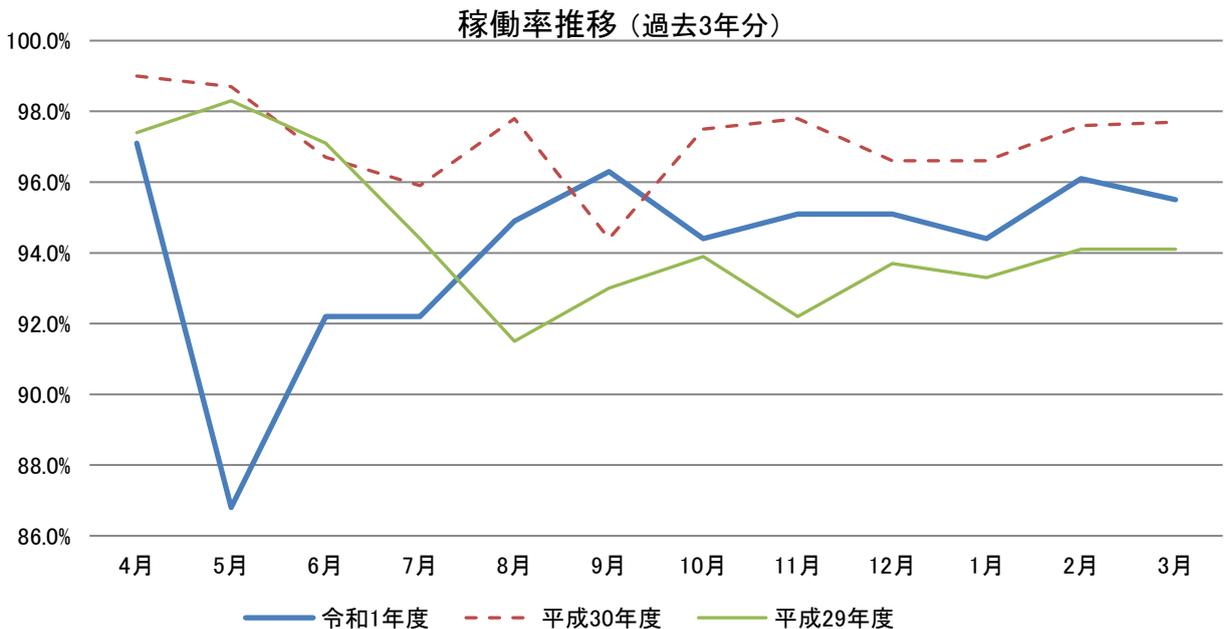
今年度は南棟増床に向けて、前年度から取り組んできた棟毎ケアの充実を図りより入居者の個別的なケアにむけ、一人ひとりの生活リズムを把握するために24時間シートを作成し食事、排泄、入浴状況等について統一したケアが行えるように取り組んだ。各ホールには入居者と一緒に壁画作成を行い、明るく楽しい環境づくりにも取り組んだ。現在取り組んでいる内容にも改善課題多く残されているが、入居者様の安心安全を基本に多職種連携を図り充実した介護に今後共取り組んでいく。

(2) 利用状況（令和2年3月31日現在）

① 要介護度・月別

介護度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	実人数
要介護1	60	62	60	91	91	89	61	60	84	86	116	154	1014	5人
要介護2	160	156	157	178	244	219	248	240	238	217	232	248	2,537	8人
要介護3	479	786	858	899	940	846	744	707	750	775	720	683	9,187	24人
要介護4	773	1015	1025	1087	1068	1134	1257	1292	1359	1344	1303	1423	14,080	47人
要介護5	858	940	942	890	894	889	908	840	812	798	695	747	10,213	26人
合計	2,330	2959	3042	3,145	3,237	3,177	3,218	3,139	3,243	3,220	3,066	3,255	37,031	110人
利用率	97.1	86.8	92.2	92.2	94.9	96.3	94.4	95.1	95.1	94.4	96.1	95.5	94.1	

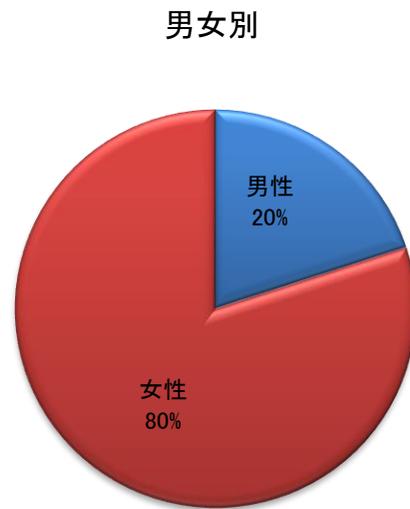
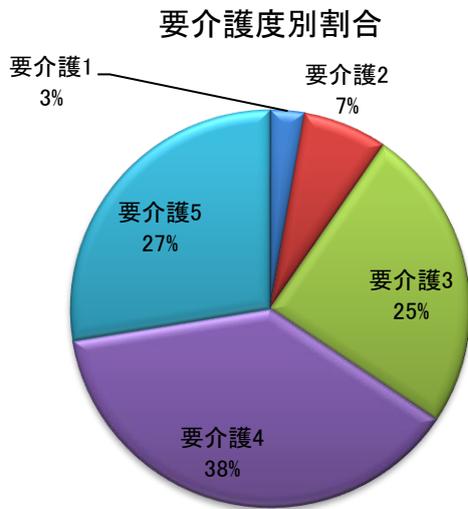
平均介護度 3.81（昨年度 3.9） ※ 平成31年度全国平均介護度（全老協統計）



② 男女別

実人数

男性	女性	計
22人	88人	110人



要介護 3、4 で認知症を根底に抱え、介助歩行の方が多く常に見守り介助を必要とする入居者が 6 割を超えている。更新認定調査後、要介護度の改善が図られているとの状況がみられ介護度が以前よりも低くなる方もわずかではあるが見られている事から、前年度より平均介護度が下がっている状況がある。

③ 市町村別

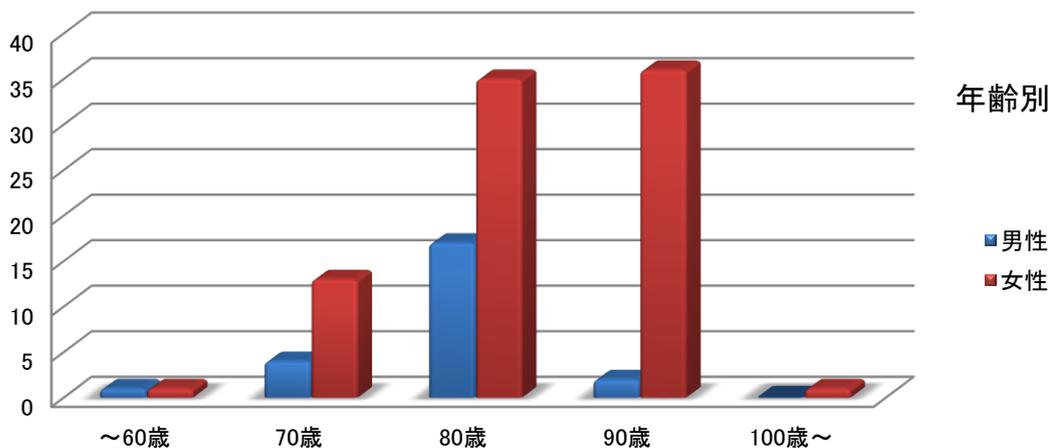
実人数

南陽市	米沢市	高畠町	川西町	その他	合計
97	2	8	2	1	110

④ 年齢別

実人数

区分	～60歳台	70歳台	80歳台	90歳台	100歳以上	平均
男性	1	4	17	2	0	83.4歳
女性	1	13	35	36	1	88.0歳
計	2	17	52	38	1	85.7歳



現在の入所者の年齢構成は、80歳以上が 82.7%を占めるが、ここ最近では 60 歳代、70 歳代の方の入所や入所申込が増えてきた傾向にある。

(3) 入退所の状況

実人数

区分	退 所 者				入所者
	死 亡	入院死亡	希望退所	計	南陽、高畠、米沢
男 性	2	3	1	6	5
女 性	13	5	0	18	18
計	15	8	1	24	23

死亡退所の内訳	施設内	入院先病院	退所後病院死亡	計
人 数	15	8	1	24
平均年齢	92.7	81.3	91	88.4

(4) 日常生活の状況

実人数

区 分	歩 行				食 事			入 浴		排 泄	
	自立歩行	歩行介助	車いす使用	ベッド生活	自力摂取	一部介助	全部介助	自力浴	機械浴	自立・一部介助	オムツ使用者
実数	1	12	35	62	51	39	20	32	78	30	80

(5) 認知症高齢者の状況

実人数

区 分	男性	女性	計
認知症日常生活自立度Ⅲ以上 (全体に占める割合)	19 17.2%	72 65.5%	91 82.7%

(6) リハビリテーション

① リハビリ実施状況

項 目	実施日	月	火	水	木	金	計
個別リハビリ	週1回	204	108	199	215	7	789
	週2回						
集団リハビリ	毎週火曜		1175		14	599	1788

② リハビリの内容

項 目	リハビリの内容		
個別リハビリ	●歩行訓練（平行棒、歩行器、杖等）	●起き上がり訓練	●座位保持訓練
	●立ち上がり訓練	●筋力訓練	●移乗訓練
	●ROM-E X（関節稼働域訓練）	●ポジショニング	●作業活動
集団リハビリ	●歌体操	●脳トレーニング	●回想法 など

～ 医 務 係 ～

(1) サービス全般について

入所者の心身の健康を維持し、日々の生活を安全で健やかに過ごせるよう、嘱託医との連携、身元引受人との情報共有により健康管理に努めた。生活面では、多職種との連携を図りながら生活レベルの低下防止に取り組んだ。

(2) 医 療

① 嘱託医の診療

嘱託医	診療科目	診療日
柏倉 祐 司 嘱託医	内 科	毎週金曜日(東棟・南棟)
門脇 仁 嘱託医	内 科	毎週木曜日(西棟) R1.10.31 契約開始～R2.1.31 契約終了
佐藤 忠 宏 嘱託医	精神科	毎月第1、3木曜日
川合 厚 子 医 師	内 科	オンコール対応
佐藤 有 弘 歯科医	歯 科	随時回診
阿部 友 宏 歯科医	歯 科	随時回診

柏倉嘱託医・門脇嘱託医による日常的な診療のほか、個人の状態に応じた必要な処置と、専門医への通院診療が行われた。

認知症疾患に関しては、佐藤嘱託医による定期診療と、また先生指導による処遇に関する施設内研究など、専門的かつ積極的な取り組みがなされた。

オンコール体制は、川合厚子先生・柏倉祐司先生で日々の診療体制を取っている。

歯科診療については、佐藤有弘歯科医、阿部友宏歯科医の往診治療、口腔衛生指導により、多くの入居者の口腔衛生が保たれ、入所者と家族から好評を得た。

② 感染症等対策

項 目	人数	実施時期
胸部エックス線検査	52名	令和1年9月9日～13日
インフルエンザワクチン	101名	令和1年10月31日・11月7・15・29日
肺炎球菌ワクチン	11名	令和2年2月28日

- ・弱酸性次亜塩素酸水による日常的な衛生管理や清掃を実施
- ・レジオネラ菌対策～浴槽の清掃、消毒薬の使用、水質検査などを実施
- ・ノロウイルス等対策～うがい、手洗いの徹底、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒(週1回及び随時)
- ・風邪など感染症予防のため、出退勤及び面会時うがい、マスク着用、手指の消毒を実施

(3) 入院・退院

入院者	退院者	入院中死亡者	継 続入院者	長期入院による契約終了	その他
37名	26名	8名	2名	1名	0名

※入院者には、同一利用者の複数回入院が含まれます

入院者内訳

公立置賜南陽病院	公立置賜総合病院	佐藤病院	公立高畠病院	米沢市立病院
0名	9名	12名	16名	0名

(4) 健康調査

入居者の健康管理上、健康状態の把握が重要なため毎月健康調査を行った

- ・日常的な健康チェック
- ・毎月定期的に血圧、体重測定を行って健康状態を確認
- ・年1回定期的に血液検査を実施した。また、体調不良時など随時、嘱託医の指示のもと、血液・尿等の検査を行い、健康管理に心掛けた。
- ・全入居者を対象に佐藤病院の協力を得て胸部レントゲン撮影を行った。受検者50人

(5) 職員の健康管理

項目	実施時期	受検者数	対象者
春季健康診断	5月	43名	夜勤職員及びパート職員
秋季健康診断	10月～12月	82名	全職員（健康保険未加入者除く）
インフルエンザワクチン	11～1月	93名	全職員
ストレスチェック	8月～11月	102名	全職員

春・秋の定期健康診断を実施し、その結果に基づき川合産業医の指導を得ながら職員の健康保持に努めた。また、生活習慣病改善に向けて専門保健師等による個別相談の受診を奨励しながら、職員の健康管理を行った。

また、各事業所の安全点検を実施し、安全で快適な職場づくりを目指した。

平成28年度のストレスチェック実施義務化に伴い、全職員を対象として、自身のストレスの気づきを促すとともに、職場環境の改善につなげ、労働者がメンタルヘルス不調となることを未然に防止することを目的に、川合産業医の指導のもと実施した。

～ 給 食 係 ～

(1) サービス全般について

令和元年4月下旬より厨房移設、5月より南棟増床オープンとなる。

旧厨房から新厨房への移設においては既存の備品・器具等大がかりな移動となった。温冷配膳車の導入、衛生面に配慮された新厨房での作業動線への対応、入職者2名の指導、人材不足等、スムーズに稼働するまでの体制づくりに苦慮した。

- [1] 基本方針に掲げられている「食べる楽しみ」については行事食、季節の食事、個人の誕生日祝など実施。おやつレクは体制づくりが難しく実施に至らなかった。新しい環境の中で体制が確立するまで厨房移設後の最優先課題は、3食の食事を定刻に提供する、誤配膳しない、が当初の目標だった。年度途中より、離職者が出たことにより人員体制が不十分となり、献立内容の簡素化、栄養士も厨房業務組込む勤務体制をとりながら給食提供を行った。
- [2] 食事摂取基準2015を基に、心身の状態にあった献立と食事作りに努めた。
管理栄養士によるフロアラウンドは上記〔1〕により実施できない状況が継続した。入居者の食事状況については給食委員会を通して各棟の介護より近況報告にて情報を得た。
- [3] 低栄養の予防・改善を図り利用者の生活の質を高めるため、食事形態においては刻み食に対して、食べやすく飲み込みやすいムース食を取り入れて、より安全、安心に食べていただけるように努めた。又、最後まで食べる楽しみを支援するため、看取り介護者へは最期まで口から食べる支援を行った。調理面においては安全でかつ衛生面に留意し調理に努めた。
- [4] 厨房の新設を機に更なる食の充実を図りたいところであったが、上記〔1〕により食の充実が図れたかは今後検証していく。
- [5] 職員採用では洗浄パートについては、令和元年6月より1名、令和2年1月より1名（障害者雇用）が採用された。この間、洗浄業務は調理員、栄養士で実施対応行った。その後も栄養士、調理員による洗浄業務の必要性があり継続している。また新規採用職員の教育、指導に関しては人員体制の遅れから予定通りの指導に至らず、離職者も出たため、日々の業務をこなすことで精いっぱいであった。

① 適時適温食事

朝 食	昼 食	夕 食
7:50～	11:50～	17:20～

温冷配膳車導入により、適切な温度帯により、食事のおいしさ、食中毒細菌増殖温度帯の回避、異物混入防止など、安全でおいしい食事提供の実現。

② 栄養ケアマネジメント

多職種協同による栄養ケアマネジメント体制で入居者全員を対象とし栄養状態の維持、改善を図った。おひとりおひとりに合わせた栄養ケア計画を作成し、家族に説明し同意を得て実施した。また定期的にモニタリング、評価し、作成した計画について見直しを

行った。計画の変更があった場合は、その都度同意を得ているが、栄養士も厨房業務に入る時間が多いため栄養ケアマネジメントは遅延している状況が続く。

項目	単位	栄養摂取量基準値 (平成 31 年度)	一日平均摂取量 普通食	一日平均摂取量 粥 食
熱 量	kcal	1587	1510	1316
蛋 白 質	g	52.6	54.6	49.7
脂 質	g	42.6	37.2	36.8
カルシウム	mg	661	709	700
鉄	mg	6.2	10.7	10.1
レチノール活性当量	μg	686	439	440
ビタミン B1	mg	0.85	1.01	0.94
ビタミン B2	mg	0.95	1.01	0.98
ビタミン C	mg	100	79	81
塩 分	g	7.2	9.1	9.2

※ 日本人の食事摂取基準（2015 年版）の数値を献立作成に用いながら栄養アセスメントで算出した個々人の必要量の充足に努めた。（上記表はその平均）

③ 給食費

年間食数	一日平均単価／人
115,828 食	755 円

※ 重度化によるトロミ剤使用者の増加、フルタイムで働く厨房職員が充足できない期間が半年続き、その間調理済食品を活用することも多かったため、給食費の値上がりにつながった。

(2) 行事食

- ① 毎月の誕生会～誕生者全員と、家族の方も参加、食事、慰問などで歓談された。楽しく和やかな食事風景が見られ大いに歓迎された。誕生日当日には一人一人のご希望を伺い厨房が中心となり多職種と共に祝福した。
- ② 正月、ひな祭り、お彼岸、クリスマスなどの行事に季節感あふれる行事食を提供した。
※行事食内容は、（資料 1）のとおり

(3) 衛生管理について

衛生的な食事の提供と食中毒、O-157、ノロウイルスなどの事故を未然に予防するため、大量調理マニュアルに添った衛生管理に努めた。新たに新厨房となり清潔区域・汚染区域に分かれたことで衛生面に配慮された環境での食事提供を行っている。更には R2 年に入り全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、職員の体調管理の徹底に努めた。

(4) 残食調査状況（残飯及び残菜合計）

平均	朝	昼	夕	給食実施数
春 4～6 月	1.0 kg	1.4 kg	1.6 kg	95 人
夏 7～9 月	1.3 kg	2.0 kg	2.0 kg	107 人
秋 10～12 月	1.4 kg	2.1 kg	1.9 kg	109 人
冬 1～3 月	1.5 kg	2.0 kg	2.1 kg	113 人
前年通年平均	0.7 kg	1.0 kg	1.5 kg	82 人

(資料1)

平成31年度行事と行事食

月	日	行事内容	行事食
4月	1日	変わりご飯の日	ゆかりご飯
	18日	誕生会	ちらし寿司、清汁、茎立お浸し、天ぷら、フルーツポンチ
	26日		
5月	1日	変わりご飯の日	わかめご飯
	30日	誕生会	ご飯、清汁、かつおたたき、わらびの煮物、三五八漬け、プリン
6月	1日	変わりご飯の日	生姜ご飯
	27日	誕生会	ゆかりご飯、みそ汁、天ぷら、甘酢和え、メロン
7月	1日	変わりご飯の日	梅しそご飯
	25日	誕生会	枝豆ごはん、清汁、牛肉と玉葱煮、酢の物、いもようかん
8月	1日	変わりご飯の日	五目ごはん
	29日	誕生会	ゆかりご飯、清汁、ぶり照り焼き、蒸し野菜みそかけ、茗荷酢漬け、ゼリー
9月	1日	変わりご飯の日	わかめご飯
	7日	敬老会	赤飯、清汁、鯉の甘煮、炊合せ、菊と胡瓜酢の物、ミルクプリン、紅白饅頭
	19日	秋彼岸	おはぎ4種、牛乳、白菜五目煮、ゼリー
	26日	誕生会	枝豆ご飯、芋煮、あけび味噌焼き、かぶ甘酢漬け、抹茶水ようかん
10月	1日	変わりご飯の日	栗ご飯
	31日	誕生会	ゆかりご飯、みそ汁、刺身、里芋そぼろ煮、プリン
11月	1日	変わりご飯の日	しめじご飯
	28日	誕生会	カニご飯、みそ汁、刺身盛合わせ、柿白和え、いもようかん
12月	1日	変わりご飯の日	わかめご飯
	19日	誕生会	ごはん、みそ汁、刺身盛合わせ、ほうれん草白和え、ラフランスゼリー
	22日	冬至	冬至南瓜
	25日	クリスマス会	ご飯、煮込みハンバーグ、ブロッコリーサラダ、ゼリー
	31日	年越しそば	そば(提供可能者)大豆と鶏肉煮、白和え、ゼリー
1月	1~3日	おせち料理	赤飯、伊達巻、いか数の子、棒だら煮、冷汁、炒り鶏、鶏の松風焼き、黒豆、昆布巻き、だいたいムース、紅白なます、きんとん、ぶり照り焼き、ぎんたら煮、とろろ
	7日	七草粥	七草粥
	30日	誕生会	ゆかりごはん、みそ汁、刺身盛合わせ、豆腐海老あんかけ、キャラメルプリン
2月	3日	節分の日	ちらし寿司、清汁、刺身、五目豆、ゼリー
	28日	誕生会	五目ご飯、みそ汁、刺身盛合わせ、茶碗蒸し、水ようかん
3月	3日	ひな祭り	ちらし寿司、ヨーグルト、ふき煮、金時豆、桃ゼリー
	19日	春の彼岸	ぼたもち4種、五目豆、ヨーグルト
	27日	誕生会	松茸ご飯、清汁、刺身盛合わせ、高野豆腐サンド煮、ゼリー

～ 総務係・事務人事係 ～

事業計画の達成と安定した運営を図るため、社会的動向や介護保険を取り巻く情勢の変化に注視し、情報の収集と理事会・評議員会への報告・提案に努めた。

「特養増床工事」については、7月14日の造成工事開始以降、月2回の工事定例会に参加し工事の進捗確認と安全・適正な工事施工の管理に努めたが、8月の長雨により工事が遅延し、オープンが1ヶ月遅れるという非常に残念な結果に至った。

「南陽やすらぎ荘の公設民営化」については、プロポーザル説明会への参加、応募申請から基本協定締結に至るまでの申請等の手続きを進めるとともに、事業計画及び予算、規定制定、人材確保と事前研修など置賜広域行政事務組合と連携しながら準備作業を行った。

人材確保と育成・定着については、人材確保プロジェクトチームによる各学校等へ訪問や施設見学会・さらに福祉就職フェアに参加しこぶし荘の魅力発信に努め人材確保に取り組んだ。令和元年度の採用者21名、うち2名は学卒で採用できたことは大きな成果であった。また、プリセプター制度を確立させ新人教育・育成に努めた。さらに翌年度から南陽やすらぎ荘の運営委託が決定し、前年度のノウハウを基に人員確保に努めた。採用前実地研修や交流会も行き、法人概要や基本理念・各担当課長によるオリエンテーションを実施し、新しい環境に適応できるよう実施した。

(1) 監査等

項目	実施機関	実施日	主な内容
介護保険施設等集団指導	山形県	R1.7.10	令和元年度の指導・監査、法令遵守、基準報酬等
監事監査（事業・会計監査）	監事	R1.5.31	指摘事項：特になし
外部評価（対象：グループホーム）	オールインワン		今年度は実施なし

(2) 情報公開

項目	公開先	内容
財務諸表等電子開示システム	Web	現況報告書、財務諸表等
介護サービス情報公表	山形県（Web）	事業所の介護サービス情報全般
山形県医療機関情報ネットワークシステム	山形県（Web）	施設内診療所（医務室）と嘱託医情報
情報開示資料（閲覧）	法人事務所	事業計画、事業報告、決算書、監事意見書等
法人ホームページ	Web	定款、事業計画、事業報告、決算書、現況報告書、利用料金表、求人情報等
法人広報誌（市内全戸回覧）	市民・関係機関	施設の状況、決算状況等

(3) 諸規定整備

規定名	規定番号	変更内容
旅費細則	(法人細則第3号)	私用車使用における実費精算単価の変更
経理規程	(法人規程第1号)	やすらぎ荘拠点区分の追加、会計統括責任者の追加、勘定科目の追加
文書取扱基準	(法人基準第1号)	評議員会議事録及び議案書の追加
公印管理基準	(法人基準第2号)	やすらぎ荘公印の追加
被服貸与規準	(法人基準第3号)	やすらぎ荘職員ユニホームの追加
慶弔基準	(法人基準第4号)	やすらぎ荘利用者、職員の確認

夏季休暇付与基準	(法人基準第8号)	夏季休暇付与基準の廃止
年末年始休暇付与基準	(法人基準第9号)	12/29日の休暇の廃止
苦情解決基準	(法人基準第10号)	やすらぎ荘は別に定める旨の追加
臨時職員給与支給基準	(法人基準第15号)	やすらぎ荘職員給与の追加
臨時職員取扱規程	(こぶし荘規程第1号)	やすらぎ荘職員給与の追加
こぶし荘消防防災計画	(こぶし荘細則第1号)	やすらぎ荘の位置づけ、別に定める旨の追加
嘱託医等の報酬支給細則	(こぶし荘細則第3号)	やすらぎ荘嘱託医の追加

(4) 人材育成・確保

- ① 人材確保プロジェクトチームによる採用活動を継続し、6月より県内の福祉系短大・専門学校、近隣の高等学校を対象に、職員採用パンフレット及び施設紹介ビデオによる求人活動を行った。
- ② 「施設見学会」や「福祉就職フェア」参加によりこぶし荘の魅力発信を行いながら、求人活動を幅広く実施した。
- ③ 採用者21名に、プリセプター制度による新人教育を実施し、採用者の教育・育成に取り組んだ。
- ④ 入職時のオリエンテーションを実施し、法人理念・基本方針等、さらに介護サービスについての基本研修を行い、法人全体への理解を図った。
- ⑤ 南陽やすらぎ荘運営委託における人事関係では、人事異動職員3名と、南陽やすらぎ荘の嘱託職員、及び新規採用者も含めほぼ予定の職員数を確保できたが、夜間介助員が充足できず現在も募集に努めている。
- ⑥ 職員研修についてはP7参照

(5) 表彰

機 関 名	人 数
全国老人福祉施設協議会（勤続15年）	1名
全国老人福祉施設協議会（勤続20年）	1名
山形県社会福祉法人経営者協議会	5名
山形県老人福祉功労者	1名

(6) 備品・設備整備

【介護・医療用品・事務機器関係】

- ①大型加湿器（既存棟）1台 ②与薬車2台 ③AED1台 ④パソコン更新22台

【増床整備関係】

単位：円

支出	金額	収入	金額
主体工事費	270,543,758	山形県補助金	58,100,000
電気工事費	47,142,000	南陽市補助金	18,540,000
機械工事費	143,316,000	災害バルク補助金	2,234,000
設計管理費	19,008,000	人材確保等支援助成金	1,500,000
土地取得費	21,008,700	借入金	420,000,000
造成外構工事費	45,002,000	自己資金	130,255,501
備品購入費	77,717,838		
その他の経費	6,891,205		
計	630,629,501	計	630,629,501

～ 業 務 課 ～

今年度も業務員2名体制で建物、設備等の保守及び補修整備を行った。

- ・経費削減のため、なるべく自前で補修作業を実施するとともに、増設された南棟敷地も含め施設敷地内の環境整備作業を行った。
- ・経費削減のため、空調設備の温度管理や消耗物品等の在庫管理を徹底した。
- ・南棟開所により建物、設備関係の取扱い説明、不具合対応を行った。

(1) 主な管理整備関係

	項 目	内 容	備 考
1	花壇整備	環境整備として植栽	いちょうの家
2	外周管理	DSC法面の調査、管理	シルバー人材センター
		芝生の除草、施肥、芝刈り等	
		法面草刈り、水路管理	
		駐車場、避難道路の除雪、維持管理 小型ホイールローダの整備 案内看板の維持管理	
3	建物管理	月次内部定期点検による管理 各部修繕	
4	温水発生器（ボイラー）及び給湯・温水配管類の保守管理	ばい煙測定、アスベスト調査の実施 床下配管の定期点検	平成17年度「車両競技公益資金記念財団」助成事業
5	合併処理槽の保守管理	定期点検、定期清掃 法定・水質検査	南棟浄化槽運用開始
6	受水槽の保守管理	定期点検・清掃、法定・水質検査	南棟受水槽運用開始
7	消防設備保守管理	誘導灯2箇所の更新 スプリンクラー誤作動による修繕	
8	地下油槽保守管理	年1回の漏洩検査を実施	消防法
9	空調・湿度管理	エアコンフィルター管理 加湿器の設置管理 空調設備の制御 エアコンリコール対応修理	CO2実績報告 弱酸性次亜塩素酸水の活用
10	電気設備定期点検	毎月1回定期点検、年1回総合点検 デマンド管理	
11	業務用洗濯機、乾燥機、汚物除去機の保守管理	消耗部品の交換 乾燥機ファンモーター交換	1998年度「国県補助事業」
12	屋上保守管理	春と秋の清掃、管理	
13	水道関係保守管理	水道部品等消耗品の交換	
14	自動ドア保守管理	年2回の保守点検	
15	レジオネラ菌検査	入浴前の浴槽湯を採取（異常なし）	
16	荘内清掃	清掃員による週4日の清掃作業 床洗浄・ワックス作業 業務員による窓ガラス、浴室等の清掃	
17	公用車の管理	「日本財団」リフトバス2台、	2003及び2006年度「日

		「24時間テレビ」リフトバス、 「日自振」リフトバス、 「競馬財団」スロープ付軽自動車 等公用車の積極的な活用及び管理 ハイエースの修理	本財団「福祉車両助成事 業 平成18年度「24時間TV」 寄贈 平成19年度日本自転 車振興会補助事業 平成25年度中央競馬馬 主社会福祉財団助成事 業
18	機械浴槽の保守管理	特殊機械浴槽の保守管理 車いす入浴装置の保守管理	2001年度国県補助事業 平成17年度郵政公社 年賀寄附金配分事業
19	介護用品等の管理	車いす、電動ベッド等の補修	
20	旧厨房内撤去作業	設備・機器類の撤去、清掃 ガスメーター、調整器更新	
21	プレハブ倉庫の撤去	老朽化した物置を撤去、一部移設	

(2) 防災に関する協定一覧

	名 称	締結日	相手方
1	川樋地区 防災協定書	平成18年12月30日	川樋地区長（こぶし荘防 災協力会会長）
2	置賜地区老人福祉施設長連絡協議会 災害時施設相互応援協定	平成20年7月8日	置賜地区老人福祉施設長 連絡協議会 会員施設長
3	災害時における福祉避難所の指定及 び使用に関する協定書	平成28年2月15日	南陽市長

11. こぶし荘ショートステイ

(1) サービス全般について

ショートステイは、地域包括ケアの推進によりその重要性が高まるなか、生活相談員を中心に、多様なニーズ（介護者の介護負担軽減、環境変化による活性化、突発的な事情等）とケアマネージャー・家族との細やかな調整に心がけた。

また、毎月ショートステイ委員会を開催し、リスク検証を行いながら安全・安心な利用を目指した。

今後もさらにサービスの充実を図り、利用者・家族の笑顔が在宅介護の継続に繋がるよう努めていく。

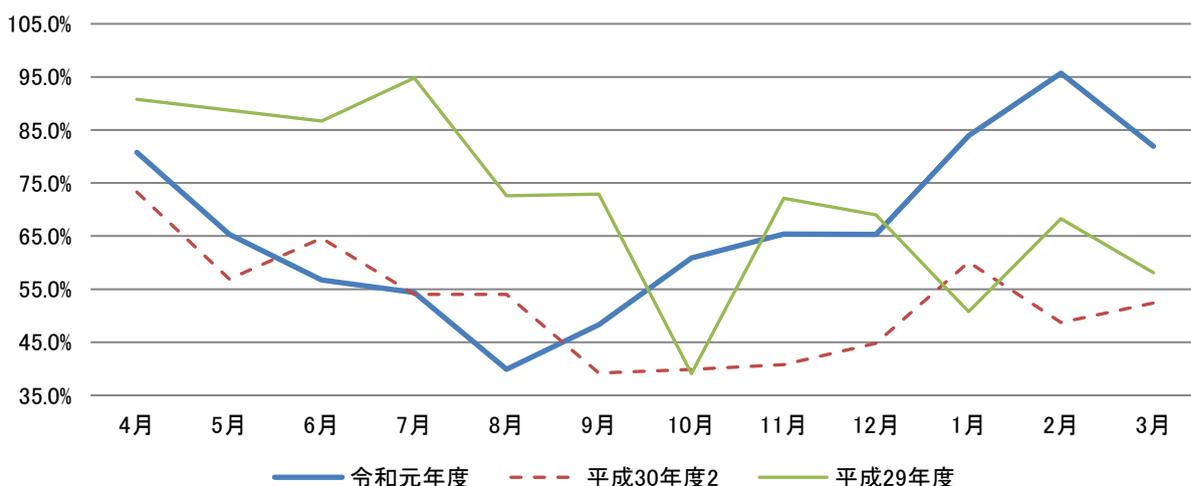
(2) 利用状況

① 月別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用延べ人数	97	162	136	135	99	116	151
稼働率	80.8%	65.3%	56.7%	54.4%	39.9%	48.3%	60.9%
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用延べ人数	157	162	208	222	203	1848人	
稼働率	65.4%	65.3%	83.9%	95.7%	81.9%	65.8%	

	延べ利用者数	月平均	平均稼働率	平均介護度
令和元年度	1,848人	154人	65.8%	2.81
平成30年度	1,530人	127.5人	73.8%	3.1
平成29年度	2,100人	175人	71.9%	3.57

稼働率推移(過去3年分)



上半期は、新棟増床に伴い利用人数を4名で実施したことで前年比を下回った。下半期に入り、新規利用者増加傾向にあったが、ご利用者の精神的な安定や体調変化等に伴い予定されていた期間の利用が出来ず、利用率の低下につながったケースが多く見られた。その後医療機関やケアマネージャーとの連携を十分に図ることでご利用者の健康面での早期対応に繋がった。

② 要介護度別

実人数

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
3	1	6	15	8	11	7	51 人

③ 男女別

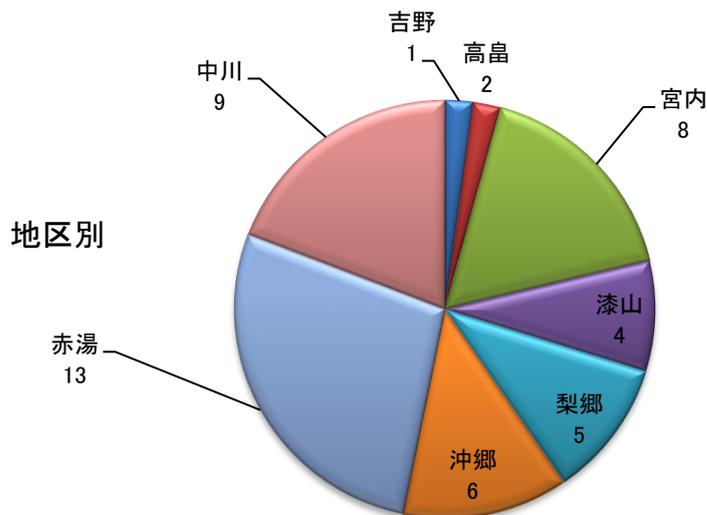
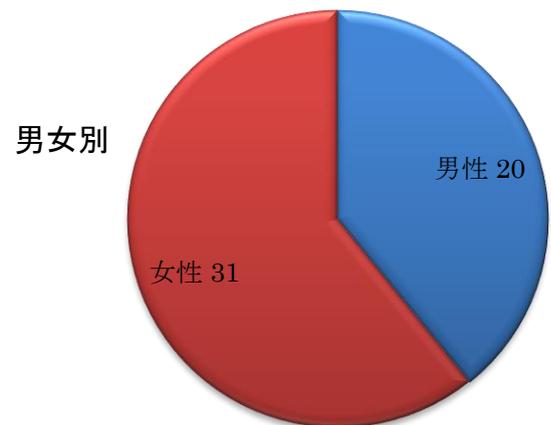
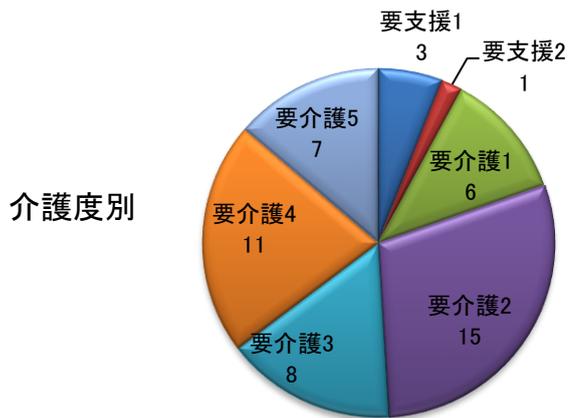
実人数

男性	女性	合計
20 人	31 人	51 人

④ 地区別

実人数

吉野	高畠	宮内	漆山	梨郷	沖郷	赤湯	中川	合計
1	1	10	4	7	6	13	9	51



12. こぶし荘デイサービスセンター

(1) 総括

1. 利用状況

地域密着型通所介護及び、総合事業の多様な利用形態に対応する為、営業日の調整及び日課の見直しを図るとともに、人員配置減による利用者サービスの低下をきたす事の無いよう、各部署の協力を受け健全経営に努めた。

2. 職員体制

職名	現員	備考	職名	現員	備考
管理者	1	兼務	看護師	1	兼務
事務員	1	兼務	機能訓練指導員	1	兼務
栄養士	1	兼務			
業務員	1	兼務	兼務計	8	
生活相談員	2(1)	常勤(兼務)	専任計	3	
ケアワーカー	3(1)	常勤(兼務)	合計	11	

3. 職員研修

職場内研修会への積極的参加を図り、職員の資質の向上及び処遇技術の向上に努めた。また、防災安全に関しても重点をおき訓練等を実施した。

主な研修会等	参加	人数
◇ RO1年度 県デイサービスセンター部会職員研修会	0	0
◇ 県老協デイサービスセンター部会生活相談員研究会(総会)	0	0
◇ 県老協デイサービスセンター部会生活相談員研究会(定例会)	0	0
◇ 置賜地区デイサービスセンター生活相談員研究会	0	0
◇ 居宅会議	0	0
◇ 運営推進会議	2	4
◇ 危険物取扱者保安講習	1	1
◇ 地域密着型介護施設集団指導	1	1

※人員体制により、外部研修会への参加(内部会議含む)が出来ませんでした。

(2) 利用実績

① 実人員(性別、利用別)

介護度	要介護					総合事業					計
	1	2	3	4	5	通12	通21	通22	通31	通32	
男性	5	4	4	2	1	1	1	0	0	0	18
女性	19	9	8	4	1	0	3	6	2	1	53
計	24	13	12	6	2	1	4	6	2	1	71

② 地区別

地区	吉野	金山	宮内	中川	漆山	赤湯	梨郷	沖郷	施設	市外	その他
男性	1	1	1	12	1	0	0	0	2	0	0
女性	5	1	1	35	0	5	0	0	6	0	0
計	5	2	2	47	1	5	0	0	8	0	0

③ 入浴別

特別浴	介助浴	シャワー浴	入浴なし	その他
11	57	0	3	0

④ 利用状態別

利用中	休止中	入院中	入所	死亡	サービス移行	新規
44	3	1	11	8	4	23

令和元年度の地区別利用者割合（実人員）は地元が68%ほど、次いで施設が11%、赤湯、吉野地区が7%となっている。

次年度、やすらぎ荘の指定管理者となる事から施設からの利用者が増加している。令和元年度の介護度別利用者割合は要介護1及び要介護2で65%を占めている。

要介護3は全体の19パーセント。要介護4は10%であり、要介護5の割合も少なくなっており、全体的に介護度は低めに移行している状況です。

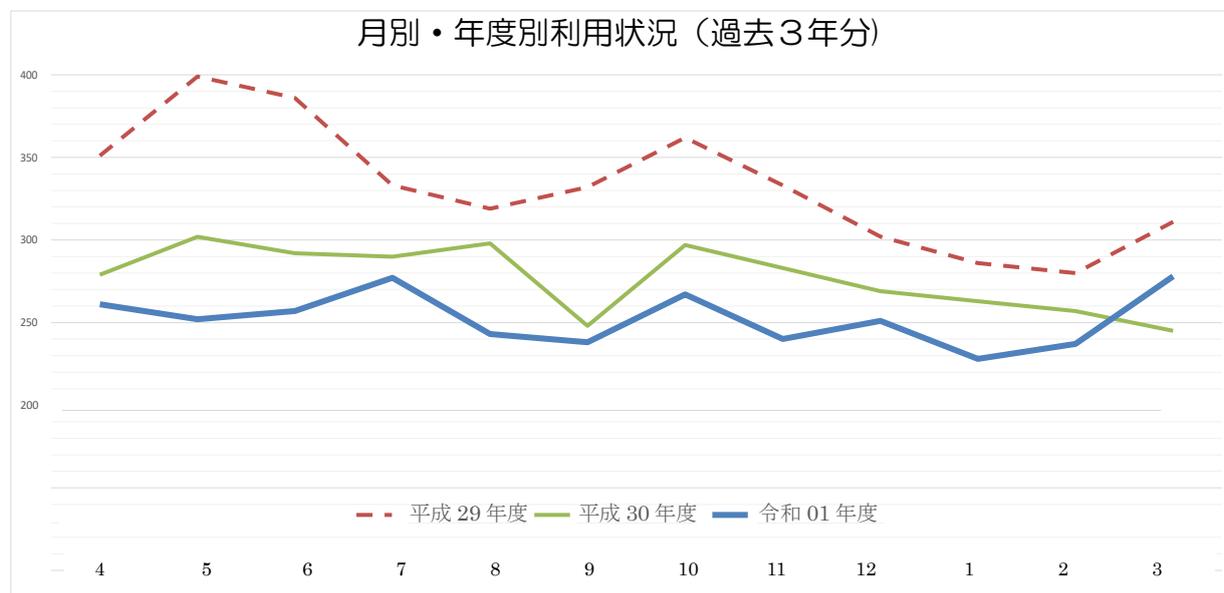
利用状態別割合は、年間を通して80%程の方が継続してご利用されていたが、当年入所、ご逝去による利用終了が例年に無い27%超えとなっている。

※休止中の内訳については、冬季自宅静養及びサービス移行の方。

⑤ 月別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
営業日	21	21	20	19	19	19	21
要介護	191	177	190	198	177	170	185
総合	70	75	67	79	66	68	82
利用者計	261	252	257	277	243	238	267
利用率	76.7%	74.1%	79.3%	77.7%	78.9%	77.3%	76.7%
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
営業日	20	20	19	18	21	238 日	
要介護	172	180	157	168	205	2170 人	
総合	68	71	71	69	73	859 人	
利用者計	240	251	228	237	278	3029 人	
利用率	74.1%	87.2%	83.3%	91.4%	81.7%	80.0 %	

※ 要介護における年間キャンセル率は、12.32%（予定件数2,475名：キャンセル305名）



(3) 利用者日課と行事

時 間	利用者の活動	業務内容	人員
08:00		出勤・送迎車点検・除雪（冬季） ミーティング、受け入れ準備	⑤
08:30	送迎バス出発	乗車介助・宅内介助	⑤
09:30	送迎バス到着	受け入れ・移動介助・連絡帳確認及び記入 ミーティング	⑥
09:40	健康チェック	バイタルチェック	
10:00	茶話会 入浴 個別リハ、レクリエーション活動	6名体制時 入浴介助(介助浴・特別浴)・浴室清掃 ※4名体制時は介助浴のみ ホール対応（総合事業時間短縮型）	⑥ ⑤ ①
11:30 12:00	入浴終了 昼 食	昼食準備・配膳 食事介助（昼当番）2名（他休憩） 口腔ケア・排泄介助・移動介助	⑥
13:00	休 養	連絡帳、日誌類記入（昼当番休憩）	
13:50	送迎出発（総合事業時短型送り）	送迎介助	②
14:00	健康チェック 入浴（特別浴）	健康チェック・排泄介助・水分補給・レク 準備・特別浴（4名体制時）	③ ②
14:20	個別リハ、レクリエーション活動	レク・リハビリ活動指導	③
14:50	手作りおやつ 茶和会・懇談	翌日利用者の確認・連絡・次回予定説明 相談等・記録（データ入力）・送迎準備	⑤
15:20	帰宅準備	連絡帳配布・排泄介助	⑤
15:40	送迎出発	送迎介助	⑤
16:50	送迎バス到着	送迎バス到着・清掃 翌日利用者受け入れ準備 ミーティング、記録（データ入力）	⑤
17:00		退 勤	⑤

月 別 行 事 実 績			
4月	・桜花見・季節のおやつ作り	10月	・秋祭り・災害避難訓練・ビデオ体操
5月	・体力測定・ゆったりティータイム	11月	・俳句・短歌
6月	・災害避難訓練 ・ゆったりティータイム	12月	・クリスマス会・季節のおやつ作り ・ゆったりティータイム
7月	・季節のおやつ作り	1月	・書き初め・体力測定・季節のおやつ作り
8月	・ゆったりティータイム・体力測定	2月	・節分豆まき・ゆったりティータイム
9月	・体力測定・野外芋煮会	3月	・雛祭り会・お彼岸・季節のおやつ作り

(4) 運営推進会議

開催日	出席者		主な内容
	委員	職員	
5月21日	4名	3名	活動状況及び利用者の状況報告
11月19日	4名	3名	活動状況及び利用者の状況報告

(5) 非常災害対策

こぶし荘防火管理並びに消防防災計画に基づいて防災関係機関との連携を図り非常災害対策及び訓練を行った。

- ◇ 防火管理者 近野生活相談員（DSC）
- ◇ 消防防災設備定期点検 9月13日
- ◇ 消防防災設備立入検査 置賜広域行政事務組合消防本部 なし
- ◇ 消防防災設備点検届出 置賜広域行政事務組合消防本部 9月分
- ◇ 夜間非常通報訓練 12月6日一斉メール、電話で実施
- ◇ 非常災害対策訓練 総合防災訓練2回

(第1回) 6月1日 通報、避難誘導、初期消火訓練、防災協力会総会
重点項目：消火器訓練、救急救命訓練、地震対応

(第2回) 11月13日
重点項目：図上訓練

- ◇ 協力依頼 ～ 南陽消防署、地区消防団、北山地区住民、防災設備会社

(6) 施設管理、環境整備、その他

- ① プレハブ倉庫の管理～介護用品、季節用品などの整備、保管
- ② リフトバスの補修整備（車検整備1台）
- ③ 床下ピット内排水作業、センター外周側溝清掃
- ④ 給湯用ボイラー、暖房用ボイラーの保守管理、修理
- ⑤ 浄化槽の保守管理（排水ポンプの管理）
- ⑥ ロータリー整備、植木、花壇の管理
- ⑦ 除雪機の整備及び保守管理、駐機場整備
- ⑧ 特浴槽、利用者用シャワートイレ、トイレ手洗い自動水洗の保守
- ⑨ 入浴用バスタオル、フェイスタオルをリース継続
- ⑩ センター内エアコンを2台増設（暑さ対策）

13. こぶし荘在宅介護支援センター

(1) 総括

介護保険における包括支援システムの構築に伴い、自立支援の観点に基づきながら、ご利用者の心身の状況、環境等に応じた適切な介護保険サービス等が総合的かつ効率的に提供されるよう総合相談窓口としての活動を行った。

今年度のサービス利用実績は他居宅支援事業所からの移管に伴い、また介護予防、総合事業の相談件数の増加により前年度比わずかながらプラス実績であった。

引き続き次年度も、いきいきサロンや地域行事への参加により地域との連携を深め、介護保険・在宅介護相談の啓蒙を図り、在宅介護説明会・認知症サポート研修会を「研修・地域連携委員会」と共同開催し、実績回復のための利用者確保に向け取り組む。

(2) 利用実績

① 在宅支援事業

1) 業務別件数

項目	件数
1. 福祉用具展示	有り
2. 相談延べ人数	3,446人
3. 訪問延べ人数	1,123人
4. 連絡調整	2,275件
5. 手続き代行	14件
6. 通院送迎介助	1件
7. 介護用品斡旋注文	0件

2) 相談内容別件数（延べ）

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1. 介護相談	90	68	38	74	50	46	55	58	28	90	50	45	692
2. 健康相談	10	28	9	6	8	3	3	8	5	4	17	11	112
3. 医療相談	31	47	42	44	49	36	21	28	19	35	25	23	400
4. ホームヘルパー	13	26	32	20	13	12	14	34	13	30	27	34	268
5. デイサービス	63	91	72	86	79	72	69	65	82	87	93	103	962
6. ショートステイ	51	19	21	17	14	17	27	18	9	24	23	18	258
7. リハビリ	2	4	2	3	2	1	1	1	3	1	5	4	29
8. デイケア	9	10	8	8	7	10	3	2	5	2	4	3	71
9. 福祉介護用品	73	56	41	38	43	52	47	41	46	62	68	51	618
10. 住宅改修	8	0	0	0	1	1	0	3	0	0	1	0	14
11. 施設入所関係	14	10	13	1	3	6	7	5	2	8	4	8	81

12. 訪問入浴	2	1	2	1	4	2	2	3	2	2	1	2	24
13. 保健福祉関係	1	5	5	2	8	3	10	12	4	7	16	10	83
14. 訪問看護	7	10	7	1	9	6	9	5	6	8	10	14	92
15. その他	0	3	0	0	0	3	5	3	0	1	0	1	16
合 計	374	378	292	301	290	270	273	286	224	361	344	327	3720

② 居宅介護支援事業

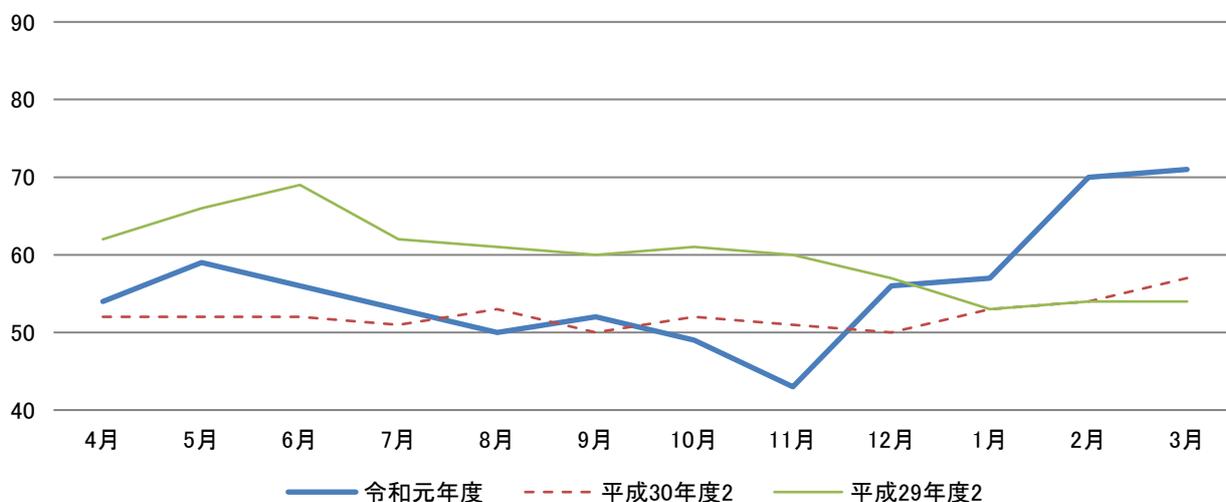
1) 居宅介護支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
認定調査	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5
給付管理	37	42	37	33	31	32	29	23	36	38	52	53	452
予防給付	17	17	19	20	19	20	20	20	20	19	18	18	227

2) 移動件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1. 新規相談	2	3	1	0	0	1	1	1	1	2	16	3	31
2. 保険外相談	1	2	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	9
3. 入所	1	5	2	0	0	1	1	0	1	0	0	1	12
4. 入院	3	2	2	4	2	5	1	0	2	1	4	1	27
5. 死亡	2	1	0	1	0	0	1	1	1	0	2	1	10
ケアマネ依頼	1	3	0	0	0	1	2	4	2	2	15	1	31

月別・年度別稼働率状況（居宅介護支援費＋予防委託）過去3年分



14. こぶし荘認知症高齢者グループホーム こぶしの家

(1) 総括

地域密着型・認知症対応型の施設として利用者の尊厳、主体性、可能性を強く意識しながら、法人の理念にケアの実践を重ねる取り組みができた。本人また、家族の身体的・精神的安定を最優先に、説明と同意の重要性、協力と信頼関係づくりを柱に「もう一つの家」「もう一つの家族」をイメージしたユニットケアを心がけた。

その中でも、重点課題とした認知症カフェ（オレンジカフェ）や認知症サポーター養成講座については、行政との連携協働と企画～開催、入居者の外出機会と趣味活動、人となりを理解し得意分野を活かした取り組みや、認知症介護研究・研修センターアセスメントシート（センター方式）の活用は具体的な実績となった。健康管理は職員による日頃の健康チェックまた、法人内や通院をはじめとする様々な医療連携、特に口腔衛生の重要性に基づく歯科医・歯科衛生士との連携・協働とケアの実践は着実に根付いた。

四季折々に市民と様々な交流の機会を設けることや、職員の認知症ケアに関するスキルアップは今後も継続して実践していきたい。

(2) 利用者の状況

① 月別・介護度別

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要介護1	60	62	60	62	62	60	31
要介護2	180	186	150	105	124	120	119
要介護3	30	31	60	93	93	90	124
要介護4	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0
利用者計	270	279	270	260	279	270	274
利用率	100%	100.0%	100.0%	93.2%	100%	100%	98.2%
入院・外泊	0	0	0	19	0	0	5
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
要介護1	46	62	62	54	13	634人	
要介護2	90	93	93	87	116	1,463人	
要介護3	120	124	124	116	116	1,121人	
要介護4	0	0	0	0	0	0人	
要介護5	0	0	0	0	0	0人	
利用者計	256	279	279	257	245	3,218人	
利用率	94.8%	100%	100.0%	98.5%	87.8%	97.7%	
入院・外泊	14	0	0	4	34	(入所までの空きベッド17日)	

② 年齢別

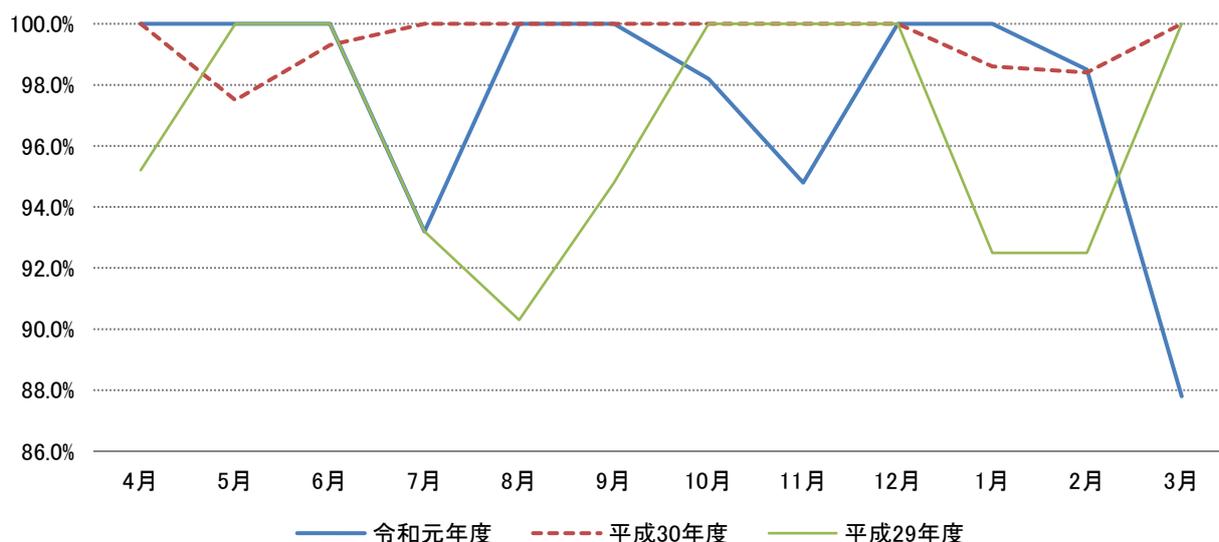
R2. 3. 31 現在

区分	～60歳台	70歳台	80歳台	90歳台	100歳以上	平均
男性	0	0	3	0	0	86.00
女性	0	0	4	2	0	89.00
計	0	0	7	2	0	87.50

③ 入退所の状況

区分	退 所 者				入所者
	死 亡	長期入院	その他	計	南陽市
男性	0	0	0	0	0
女性	0	1	0	1	1
計	0	1	0	1	1

月別・年度別稼働率状況(過去3年分)



平均介護度は2.2(昨年度1.9)で、要介護が徐々に高くなってきている。入院日数は57日(昨年度0日)と増加し、次期入所までの空きベッドは17日(昨年度17日)であった。

(3) 利用者サービスと日課

利用者の生活は、様々なアセスメントの機会から把握した「人となり」に寄り添うことで繋がっていく。職員のこだわりは、「利用者のペース」と「どう暮らしたいか」の思いの察知にある。認知症ケアは尊厳のケアであることと、職員が意識化すべきことは利用者主体の理念であるとして1年間実践してきた。家族、地域、医療、行政等様々な機関との連携が、安心して地域で暮らせる力となっているという実感がある。地域行事への積極的参加や趣味活動、得意分野を活かした取り組みは、利用者の笑顔からその答えを頂いている。今後も利用者主体のゆったりとした時

間、行事やレク、季節感のある食事や外出の機会など楽しみを見つけられるサポート役を担って
いきたい。

一日の流れ（日課表）	
6:00	起床、洗面、着衣交換
7:00	朝食準備、加湿器水補給（使用期間）、清掃
7:30	朝食、後片付け、健康管理チェック
9:00	清掃、洗濯物畳み（前日の午後～就寝前の物）、洗濯（起床～朝食時の物）
10:00	お茶、レクリエーション 等
10:30	入浴、昼食準備
11:00	昼食準備
12:00	昼食、後片付け、洗濯物畳み（起床～朝食時の物）、洗濯（午前中の物）
13:30	休 憩、トイレ清掃
14:30	レクリエーション、お茶、健康管理チェック、入浴 等
16:00	夕食準備、洗濯物畳み（午前中～昼食時の物）
17:00	夕食、後片付け、ゴミ収集、洗濯（午後～夕食時の物）
19:00	だんらん、トイレ清掃
19:30	就寝準備
20:00	就 寝

（４）主な地域交流・家族交流

月 日	地域交流・家族交流
4月21日	チャリティコンサート（南陽市文化会館）
6月 3日	バスハイク（諏訪神社 芍薬祭り）
6月 4日	バスハイク（諏訪神社 芍薬祭り）
7月 4日	オレンジカフェ（笹巻き作り）
8月 3日	佐藤病院夏祭り
8月12日	いわぶの里夏祭り（中川公民館）
9月 7日	こぶし荘敬老会
9月14日	中川小学校運動会
10月12日	こぶし荘秋祭り【中止】
10月28日	バスハイク（南陽の菊祭り）※午前、午後の2回実施
11月 3日	中川地区文化祭（中川小学校）
11月 3日	中川地区文化祭（中川小学校）
12月15日	オレンジカフェ（ハンドベル演奏会 まつりよしの様）

(5) 運営推進会議

指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準に基づいて2ヶ月に1回、計6回開催した。本人と家族の思い、市民の思いに寄り添うことを大切にし、当事者感覚でのケアの追求と運営を意識しながら実践することにより、更に質の高い介護を目指すことを目的とした。

開催日	出席者		主な内容
	外部委員	職員	
5月24日	3	3	入居者状況、元年度委員・細則、事業計画 他
7月16日	3	2	入居者状況、家族交流・地域交流 防災訓練 他
9月20日	3	2	入居者状況、敬老会、介護保険法改定、研修 他
11月15日	3	3	入居者状況、秋祭り中止、防災ネットワーク 他
1月22日	3	3	入居者状況、感染症対策、オレンジカフェ報告 他
3月11日	3	3	入居者状況、新型コロナ対策、環境整備 他

※建物や設備、電化製品や機器の交換・修繕について、また職員の研修受講に関してや外部の会議・研修会等への派遣状況についても、毎回の議題の中に採り入れた。

(6) 防災訓練

日常の防火防災に努めるとともに、災害時には特別養護老人ホームこぶし荘職員と一致協力して災害に対応するよう訓練を行った。

- ・ 6月 1日 第1回総合防災訓練
- ・ 11月18日 第2回総合防災訓練（図上訓練）
- ・ 11月19日 非常通報訓練

(7) 建物・設備管理

- ・衣類乾燥機修理 4月12日
- ・冷蔵庫修理 4月17日
- ・トイレと汚物除去室 排水口清掃 5月28日
- ・事務室洗面台蛇口交換 5月29日
- ・ホール用カーテン洗浄 6月14日
- ・防災設備品各種購入 7月 8日
- ・キッチン内メンテナンスとIH電磁調理器交換工事 7月19日
- ・防災ヘルメット交換買い替え 7月30日
- ・エアコン修理 8月 8日
- ・全館ワックス清掃 8月23日
- ・もみじ居室クロス貼り換え工事 9月 2日
- ・衣類乾燥機修理 10月 3日
- ・衣類乾燥機修理 12月20日
- ・洗濯室換気扇交換工事 1月20日

※エアコンフィルター清掃、加湿器清掃は随時

★★ 令和元年度事業報告書 ★★

法人名： 社会福祉法人南陽恵和会
理事長 遠藤 東一朗

所在地： 山形県南陽市川樋508番地

電話： 0238(49)2800

FAX： 0238(49)2802

メール： kobushi@bz01.plala.or.jp

URL： <http://kobushiso.jp/>